

＜開会挨拶・報告＞

関山護・日本ウズベキスタン経済委員会会長／丸紅側副会長 開会挨拶・報告

おはようございます。日本ウズベキスタン経済委員会会長の関山でございます。

第12回日本ウズベキスタン経済合同会議の開会に当たり、日本ウズベキスタン経済委員会を代表し、ご挨拶をさせていただきます。

尊敬するアジモフ・ウズベキスタン第一副首相兼財務大臣、ウズベキスタン日本経済委員会会長閣下、ウズベキスタン政府代表の皆様、トゥルスノフ特命全権大使閣下、加藤駐ウズベキスタン共和国日本国特命全権大使閣下、山崎財務省財務官、赤石経済産業省審議官、武藤外務省欧州局参事官、ならびにご来賓、ご列席の皆様。

新しい年を迎え、心が改まった良き日に、アジモフ第一副首相閣下をはじめとするウズベキスタン共和国代表団をお迎えし、第12回合同会議を開催できることを心よりお喜び申し上げます。

2015年は、第2次世界大戦の終結から70年になります。十二支では、8番目の羊年にあたります。羊は古来より人との繋がりが深い動物とされ、善良で、群れをなして暮らすことから、家族がいつまでも平和で暮らすことを意味しています。今日世界各地において自然災害や病気、そして紛争、暴力が広がっております。年頭にあたり、貴国と我が国、そして世界中に、平和と繁栄がもたらされる一年となりますことを祈念いたします。

本日の合同会議には、日本側からは日本ウズベキスタン経済委員会のメンバーをはじめ、貴国との経済交流に関心のある民間企業の代表が多数参加しております。また日本政府および関係機関からは経済産業省、外務省、財務省、JETRO、JBIC、JICA、JOGMECの代表の方々にも参加いただいております。日本側の関心の高さを反映し、日本側出席者は、155名となっております。

ウズベキスタンからは、アジモフ第一副首相兼財務大臣閣下をはじめとし、トゥリャガノフ・対外経済関係・投資・貿易省次官、そして後ほどご報告いただく、ミルザヒドフ・国家通信・情報化・通信技術委員会議長、ファイズライエフ・ウズベクネフチェガス総裁、バシドフ・ウズベクエネルゴ総裁を含めまして総勢16名に参加いただいております。

このように第12回合同会議は日ウ双方合わせて170名が参加する、かつてない規模になりました。まさに日本とウズベキスタン両国の経済発展に双方が大きな関心を寄せている証拠だと思います。

わが国においては、昨年末に行われた総選挙において、自公連立政権が高い支持を得て、安倍政権の基盤がさらに安定しました。安倍首相は、三本の矢からなる経済政策「アベノミクス」を主導しております。すなわち、大胆な金融政策、財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の三つの政策ですが、これにより日本は長期にわたるデフレ経済からの脱却を図っております。構造改革とそれによる持続的な成長にも期待が高まっているところです。

貴国におかれましては、保健、住宅等社会分野の整備による国民生活の向上、鉱工業の発展、観光業促進のための交通網整備等、国家によるプログラムが実施されていると伺っております。

豊富な地下資源と発展プログラムの実施により、2013年には8.1%の経済成長率を示し、2014年も同様に7%から8%の高い経済成長を持続しております。

貴国と日本との貿易実績ですが、2013年が2億2,300万ドル、2014年の1月から10月までの速報で、前年同期比95%となっており、通年では2億ドル台となり、金額的には安定しております。しかしながら、貴国の高い経済成長率と高い技術力、イノベーションを背景に海外の高い成長力を取り込み、日本の成長に繋げようとするアベノミクスを考慮すると、両国の経済交流はもっと活性化されるべきであると思います。

このような状況の中、昨年8月に、当時の茂木経済産業大臣が貴国を訪問した際に行われた、アジモフ第一副首相閣下、ガニエフ対外経済関係・投資・貿易大臣との会談において、両国間の貿易・投資の促進と電力分野の協力拡大について話し合われました。私自身も大臣に同行させていただき、会談に同席する機会を得ました。

昨年11月には貴国の電力セクタープロジェクトに対して、総額868億3,900万を限度とする円借款に関する書簡の交換という成果に結びつきました。今後は、投資の促進も視野に入れて、さらに経済成長に寄与できることを期待しております。

また電力分野のみならず、自動車製造、情報通信技術、医療等の分野においても、日本企業は活発に活動しております。なお、後ほど、これらの分野に関する両国の署名がなされる予定であります。

このように様々な分野において、日本とウズベキスタンの協力により、さらに両国間のビジネスが拡大することを期待しております。

今回の会合同議は、こうしたプロジェクトやビジネスを進めるとともに、両国間のパートナーシップをさらに強化・発展させる重要な機会であると考えております。

多くの日本企業が参加できるビジネス案件を形成するために、積極的に情報共有を行い、活気ある、意義のあるものとなることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

アジモフ・ウズベキスタン日本経済委員会会長／第一副首相兼財務大臣 開会挨拶・報告

関山会長、わが国に対する温かいお言葉に感謝申し上げます。尊敬するご列席の皆様、日本企業および関係機関の皆様、ウズベキスタン政府を代表し、心よりご挨拶申し上げます。

本日このような形での第 12 回日本ウズベキスタン経済合同会議の開催、日本の皆様の温かいおもてなし、そして素晴らしい運営に感謝申し上げたいと思います。

日本との関係ですが、2002 年に戦略的パートナーシップが確立され、長年にわたる友好関係、実り多い互恵的協力は、お互いに対する敬意と信頼に基づいたものであると認識しております。2011 年 2 月のカリモフ大統領の日本訪問の際、両国間で総額 30 億ドル規模の様々な共同プロジェクトに関する文書が調印されました。それから 4 年が経ち、私達は、合意事項を実現するため、非常に大きな仕事をして参りました。そしてその協力関係は、日本経済の着実な発展にも寄与しているものと思っています。日本企業は、様々な産業において、世界的にリーダーの地位を保っておられます。

現在、安倍総理大臣の下、日本においては「三本の矢」という経済改革のための様々な措置が行われています。先般の総選挙では、その路線が正しいと国民が支持いたしました。日本とウズベキスタンの間には、大きなポテンシャルがあると思います。互恵の経済関係をさらに拡大しようと、わが国は非常に大きな関心を持っております。今回の訪日日程には安倍総理大臣との会見が予定されております。その会見において、わが国のカリモフ大統領の親書をお渡しする予定です。親書には、安倍総理大臣に是非ウズベキスタンを訪問していただきたいということが書かれております。この合同会議の内容も、安倍総理に報告させていただく予定です。

さて、前回の第 11 回合同会議から 2 年が経ちましたが、その間ウズベキスタンの経済がどのように発展してきたか、今後どのように発展していくかについてお話ししたいと思います。ウズベキスタンの人口は 3,020 万人で、中央アジアにはカザフスタン、ウズベキスタン、キルギスタン、トルクメニスタン、タジキスタンの 5 つの国がございますが、その人口の約半分をウズベキスタンが占めております。石油、天然ガス、金、ウラン、モリブデン、鉛、亜鉛、レアアース、レアメタル等多くの天然資源や、綿花、絹等をはじめとする豊富な農産物が収穫されます。また、ウズベキスタンの人口の半分は若者で、12 年間の義務教育を経て、2 つの職を身に付けることになっており、2 ヶ国語の習得が行われています。2000 年代に入り、構造改革という着実な政策を行っております。その柱は、マクロ経済の安定化を確実なものにする、全ての産業分野において構造的な変革と近代化を行い、ハイテクを導入する、私的所有を着実なものにし、民間企業の発展・成立を促進するというものです。また、インフラ整備、ITC、鉄道や道路、輸送、技術等を着実に建設していくということです。このような戦略が着実に実行されており、その結果、直近 10 年間は 6 年間で世界的な金融危機にも関わらず、ウズベキスタンの経済は毎年平均 8 % の成長を遂げております。これは世界でも有数の経済発展指数であります。

ウズベキスタンの国内債務はゼロで、これは日本の皆様にはとても興味深い数字であると思います。1990 年代にあった国内債務は、償還いたしました。一方、対外債務は GDP の 15% です。世界銀行の評価によりますと、控えめな数字であるということです。現在まで、1 ドルたりとも

返済の遅延はございません。

わが国の発展は、カリモフ大統領が提唱するウズベクモデルがコンセプトとなっており、5つの原則があります。何よりもまず経済が政治に優先すること、法の支配、国家が改革者であること、段階を追った漸進的な改革を行うこと、社会政策を着実に行うこと、つまり、一步ずつ段階を追ってということになります。構造改革の結果、ウズベキスタンではそれまでない新たな産業分野が成立しました。自動車工業、石油化学、石油ガス、機械製造、建設資材、医薬品、家電製造等です。ソビエト時代をご記憶の方々はお分かりになると思いますが、当時のウズベキスタンは、綿花を製造し、原綿の輸出をして、食べていけば良いと言われておりました。だからこそ強調したいのですが、ソビエト時代とは全く異なる姿となりました。独立以降、わが国の輸出は30倍の伸びを示しました。1990年代の輸出の半分は綿花と綿繊維でしたが、現在、綿繊維の輸出は全体の10%に過ぎず、約70%は、完成品と半製品です。

投資プロジェクトの実現のため、技術的パートナーを選ぶにあたり、トップ企業を選んでおります。例えば、アメリカのゼネラルモーターズ、ボーイング、ハネウェル、コカコーラ、ケースニューホランド、ドイツの企業としてはクナウフ、レムケンなどがあります。また、スイスのネスレ、スペインのマクサム、韓国ของヒュンダイ、サムスン、LG、ロッテケミカル、中国のファーウェイ、CNPC、シティック、マレーシアのペトロナスといった企業と協力しています。日本企業は、三井物産、いすゞ自動車、伊藤忠商事、三菱商事、日立、丸紅、住友、JOGMEC、NEDO企業です。これら日本企業の皆様は、ウズベキスタンにおける構造改革に参画して下さっており、例えばブハラ製油所の建設、シュルタンのガス化学工場建設、紡績の近代化、タシグザールークムクルガンの鉄道建設の電化にも参加いただいております。何よりも、日本はハイテクの国でありますので、同分野での協力を望んでいます。またファイナンスも重要な分野です。カリモフ大統領曰く、まずハイテク分野で何かをするのであれば、まず日本企業に話をするべきだと言われております。本日の合同会議では、石油、ガス化学、機械製造、電気、紡績、冶金、家電、観光、インフラ整備の分野での投資プロジェクトを提示します。工業の近代化に関する新しいプログラムを採択いたしました。約900の新しい投資プロジェクトが含まれており、金額にして380億ドル以上のものです。是非とも日本の皆さんに参加して頂きたいと思っております。

昨年、長期にわたる戦略的プログラムとして、電力におけるジュピターイニシアチブが実行されました。これはウズベキスタンのガスタービンなどの電力分野を日本の技術をもって近代化するプログラムです。三菱や日立と協力して行います。12の発電ブロックでは、新敷あるいは既存のものを完全に近代化することになっており、日本の先進的な企業と協力したいと思っております。この分野だけで、100億ドル規模のものであります。

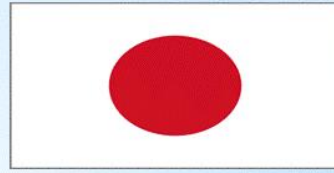
さて、自動車工業では、伊藤忠商事といすゞ自動車とパートナーシップを進めております。サマルカンドのサムオートでは、いすゞのバス、トラックの製造を行っております。また、JOGMECとの協力も大変重要です。石油ガス、ウラン、レアメタル、レアアースの地質探査について、昨日JOGMECと協定を締結いたしました。石油ガス分野における新しいプロジェクトに関するものです。通信分野では、日本のNEC、小川精機と協力しています。テレビのデジタル化や通信回線の近代化で、約100億規模のものであります。国土の100%のテレビをデジタル化することになっており、旧ソ連の国家としては初の試みです。また、ウズベキスタンのナヴォイ州におけるアン

モニア、尿素の製造に関して、三菱重工業とも協力しています。実は昨日の深夜まで話し合いをしておりまして、本日調印を行うことになっております。我々はムバレク・ガス化学工場、そしてブハラ製油所の第2フェーズの建設を控えておりますので、是非とも日本の先進的な企業と協力をしたいと考えております。

さて、両国の2つ目の大きな協力である投資についてお話したいと思います。投資分野での協力というのは、両国関係の中で特に重要な位置を占めております。JICAとの協力は、金額にして24億ドルにのぼります。これは、本日総裁が参加しておりますウズベキスタン復興開発基金、ここは250億ドルの資金を持っておりますが、JICAが参加した24億ドルのプロジェクトにも、同復興開発基金が10億円出資いたしました。また日本のJBICとの協力も、高く評価しております。現在、25億ドル相当の提案をしており、今後文書での調印を待つという状況です。日本企業からの投資もお待ちしております。わが国で、近代的なハイテク製品を製造し、輸出をしていくということになります。国家の安定性、電力の基本料金、必要な原材料、スキルの高い労働力という点において、ウズベキスタンはこの地域でトップの地位を占めております。ウズベキスタンで製造をするということは、順調な成長を続ける人口6,000万人を有する中央アジアへのアクセスを得ることに加え、人口3億人のCIS諸国へのアクセスを可能にします。

尊敬する参加者の皆様、またわが国が独立後すぐに、積極的に我が国と協力をして下さった皆様にお礼を申し上げたいと思います。この23年間、日本では度々政権の交代がございました。90年には羽田前首相、その後小渕首相、森首相、そして小泉首相、麻生首相と変わり現在は安倍首相ですが、歴代総理の元で、日本は協力を続けて下さいました。そして財務省、外務省、経済産業省、JICA、JBIC、JOGMEC等との協力も、大変重要であります。日本企業の皆様、ウズベキスタンで仕事をして下さる日本の皆様に、今後におけるますますの協力拡大をお約束したいと思います。両国間の協力ですが、経済分野での充実した協力というのは、何よりもまず人と人との協力によって成り立つものです。ウズベキスタンが独立してすぐ、私どもに協力して下さった人々にいつもに感謝の気持ちを抱いております。

現在、わが国と日本との協力は新しい段階に入ったと思います。今後両国の国益が完全な形で保証され、また両国のプライオリティを明確にできると思います。電力や土地改良を含めた様々な分野についての両国の対話が素晴らしい形で発展していく、そして大規模なプロジェクトが調印される時期にきております。日本のパートナーにも高い利益をもたらすであろう、新しい時代の訪れを歓迎したいと思います。ご静聴ありがとうございました。



歓迎スピーチ

ルスラム アジモフ

ウズベキスタン共和国第一副首相、
財務大臣

ウズベキスタンと日本 - 戦略的パートナー



2002年7月22日ウズベキスタン－日本友好、戦略的
パートナーシップと協力に関する共同声明が署名された

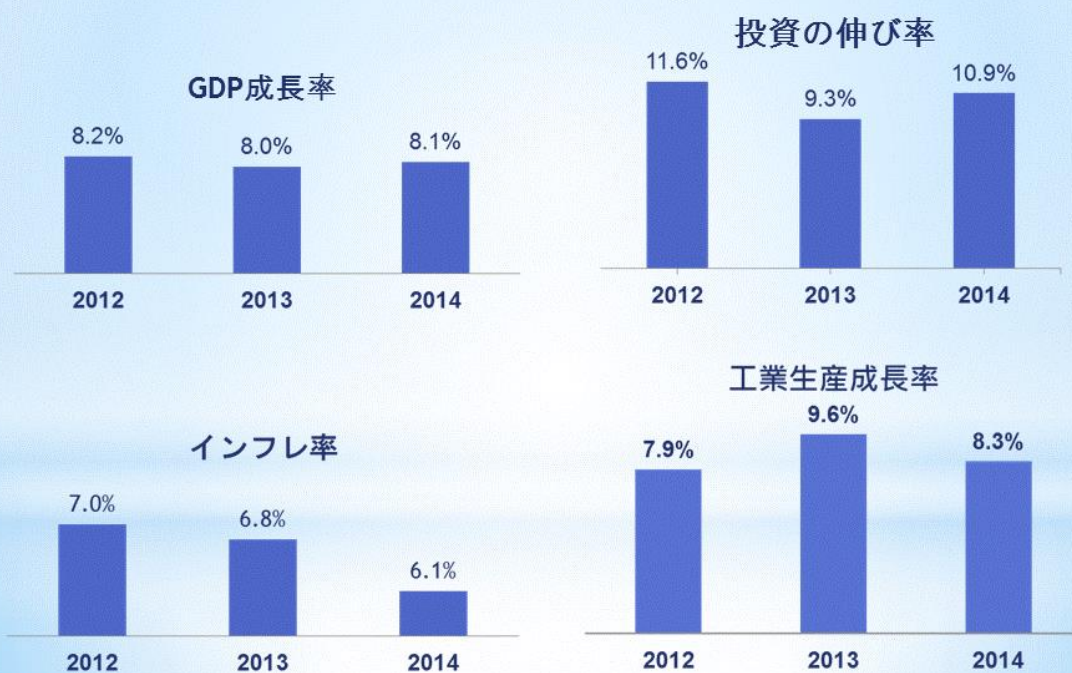
ウズベキスタンの経済



ウズベキスタン経済モデルは主要な5原則に基づく、すなわち：

- 政治より上に経済の優先順位
- 国が主な改革者
- 社会の生活のすべての分野で法の支配
- 強い社会政策
- 市場経済への「ステップ・バイ・ステップ」の移行

ウズベキスタンの経済



協力のための新たな展望

基幹産業のテクニカルおよび技術的な機器変換やウズベキスタンのインフラの近代化プログラムの総額が380億ドルを超える



Automobile



Electronics



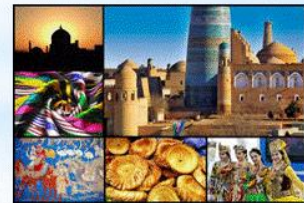
Pharmaceuticals



Light industry



Construction materials



Tourism

エネルギー分野における協力



2014年11月10日にはウズベキスタン政府と日本の国際協力機構（JICA）はトゥラクルガン火力発電所建設事業の支援のために総額718.39億円の借款契約を署名された



MITSUBISHI



東北電力



自動車産業分野における協力の 創設者

Samarkand Automobile Factory LLC

FOUNDERS	ウズアヴトサノアト (UZAVTOSANOAT)、アサカ銀行 (ASAKA BANK)、伊藤忠商事株式会 社
PRODUCTION CAPACITY	4 000 PIECES
ESTABLISHMENT	NOVEMBER 6, 1996
START	MARCH 16, 1999
LOCATION	SAMARKAND CITY
PRODUCTS	BUSES, TRUCK & COMMERCIAL VEHICLES



ISUZU



ITOCHU

電気通信における協力

通信の主なネットワークをアップグレード
し、デジタルテレビへの移行のためのプロ
ジェクト



NEC
OKI

Fujikura

協力のための新たな展望

石油・ガス及び化学工業における有望なプロジェクト

- ナヴォイ地域のアンモニアと尿素の生産
- ムバレクガス化学コンプレックスの建設
- ブハラ精製所の近代化と拡張



日本との協力



1993年から日本政府が提供された資金・技術援助の総額は34億ドル以上である



＜来賓挨拶＞

山崎達雄・財務省財務官 来賓挨拶

アジモフ・ウズベキスタン日本経済委員会会長、関山・日本ウズベキスタン経済委員会会長、ご列席の皆様。

第 12 回日本・ウズベキスタン経済合同会議の開催をお祝い申し上げます。また、ウズベキスタンからお越しの皆様を心から歓迎致します。麻生太郎副総理は、本日、国会に出席しているため、アジモフ第一副首相とは別途会談の場を設けることとなっており、この場は私からご挨拶させていただきます。

ウズベキスタンと日本は、1991 年のウズベキスタン独立以前から深い関係にありました。第二次世界大戦後、日本人がタシュケントに建設し 1947 年に完成した堅牢なナボイ劇場は、1966 年の大地震でも倒壊しなかったことは、日本人の勤勉さの象徴としてウズベキスタンの方々に語られているエピソードであり、皆様もよくご存じでしょう。

1991 年のウズベキスタン独立以降、日本は一貫してウズベキスタンの人材育成・インフラ整備といった国づくりを支援し、人的関係も築いています。

ウズベキスタンは独立当初からウズベク・モデルと呼ばれる漸進的な改革路線を採用しています。綿花栽培や天然資源の採掘がウズベキスタンの伝統的な産業ですが、ウズベク・モデルの一例として、自動車産業も育ちつつあります。こういった産業政策が実を結んだこともあり、ウズベキスタン経済は 8%台の高成長が続いています。ウズベキスタンの GDP の 5%を占める経常収支は黒字基調ですし、外貨準備も潤沢で、財政状況も黒字という文句のつけようのない経済状況であると聞きます。

このようなウズベキスタンの経済成長を更に後押しすべく、日本は発電所整備を中心に空港や通信網など幅広いインフラ分野での支援を行ってきました。最近の例では、通称「ジュピター」という電力セクター向け大型円借款を昨年 11 月に調印しています。この資金は主に、コンバインド・サイクルという高効率ガス火力発電所の新規建設に充てられ、電力不足が進むウズベキスタン国民の生活水準の向上を支援するものです。

これに加え、今後、アムブハラにおいてウズベキスタン最大規模の灌漑施設を改修する事業や、地上デジタル放送導入事業なども日本の支援が進んでいきます。

ウズベキスタンの方々には、日本製品や日本の技術力が高く評価されており、日本の支援は、ライフ・サイクル・コストが安く、現地への技術移転を伴い、現地雇用も生み出す、価値ある支援であることもウズベキスタンの方々には理解して頂いております。ウズベキスタンを含めアジアには膨大なインフラ・ニーズがあり、日本はアジア開発銀行とも連携して、これらインフラ・ニーズに応えていく所存です。

今日、この会場にお越しのウズベキスタン進出にご関心のある企業の方々には、この会議を通じて、ウズベキスタンとの交流を深め、ビジネスチャンスにつなげて頂きたいと思います。

また、ウズベキスタンは、古くはアジア・欧州をつなぐシルクロードの要衝でもあり、歴史・文化・観光の面でも今後ますます注目を集める国となるでしょう。そのような視点からもウズベキスタンの魅力を再発見して頂きたいと思います。

本日の会議により、日本とウズベキスタンの関係が今後さらに深まることを祈念して、私のご挨拶と代えさせていただきます。

赤石浩一・経済産業省審議官（通商政策局担当）
来賓挨拶

ただいまご紹介いただきました経済産業省大臣官房審議官の赤石でございます。本日の第 12 回日本ウズベキスタン経済合同会議の開催にあたり、経済産業省を代表して一言御挨拶を申し上げます。

はじめに、本会議の開催にあたりウズベキスタン日本経済委員会会長であるアジモフ第一副首相兼財務大臣を始めとするウズベキスタン日本経済委員会の皆様、そして、関山会長をはじめとする日本ウズベキスタン経済委員会の皆様には、ビジネスの促進を通じた両国間の経済関係の強化に、ひとかたならぬご尽力いただいていることに深く敬意を表します。

経済界が主体となった本会議が 1994 年から長期にわたり続けられ、今回 12 回目の開催を迎えることは、我が国とウズベキスタンの間の経済関係の重要性を示すものであり、これまでの皆様のご努力に深く感謝申し上げます。

わが国とウズベキスタンとの経済関係は、着実に進展しております。昨年は、5 月の麻生副総理の訪問に続き、8 月には茂木経済産業大臣が関山会長をはじめとするビジネス・ミッションとともにタシケントを訪問し、カリモフ大統領、アジモフ第一副首相兼財務大臣、ガニエフ対外経済関係・投資・貿易大臣と会談し、両国の経済関係を更に進めていくことを確認いたしました。

ウズベキスタンは、天然ガス、ウラン、金など天然資源を豊富に有しています。このような天然資源分野での協力に加え、大規模ガスタービン、コージェネレーション、灌漑設備などを通じて、日本の技術はウズベキスタンのインフラ整備に貢献してきております。また、既に 10 年近くになるバス・トラックの製造事業に加え、情報通信といった新しい分野に協力の範囲が拡大してきていることは大変良いことだと思います。

ウズベキスタンには、親日的な方々が多く、日本の技術への高い信頼があり、また、勤勉な国民性を有していると伺っており、先程副首相がおっしゃったような様々な改革を通じて、今後の日本企業の更なる進出につながることを期待しております。

経済産業省といたしましても、我が国とウズベキスタンの間の経済関係の強化に、より一層努めていきたいと考えております。

日本・ウズベキスタン両国が更に友好を深め、経済関係を強化していくため、本日の第 12 回経済合同会議が実り多いものとなることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

武藤 顕・外務省欧州局参事官（大使）
来賓挨拶

おはようございます。アジモフ・ウズベキスタン日本経済委員会会長、関山・日本ウズベキスタン経済委員会会長、ご列席の皆様。

本日、ここに第12回日本・ウズベキスタン経済合同会議が開催されることをお祝い申し上げますとともに、ウズベキスタン代表団の皆様の訪日を心から歓迎致します。また、日本とウズベキスタン両国の友好及び経済関係強化のために長年尽力してこられたアジモフ会長、並びに本日の会議を開催するため尽力された関山会長を始めとする関係各位に敬意と感謝の意を表明いたします。

中央アジアの中心に位置し、地域最大の人口を擁するウズベキスタンは、中央アジア地域全体の安定と繁栄にとって極めて重要な国です。またウズベキスタンは、我が国と遠く離れているにも関わらず、大変な親日的な国としても知られるようになりました。我が国は、複雑な国際環境の中にあっても安定と発展に向けて着実に歩みを進めるウズベキスタンの努力を一貫して支持してきております。

昨年11月に交換公文への署名に至った円借款案件「電力セクター・プロジェクト・ローン」や今回署名の運びとなった「アムブハラ灌漑施設改修計画」は、日本とウズベキスタンの友好の証であり、ウズベキスタンにおけるエネルギーの安定供給並びに農業生産力の向上に資することを期待しています。

日本・ウズベキスタンの政府関係は、昨年大きく進展いたしました。1月に上川総務副大臣、5月に麻生副総理、8月に茂木経済産業大臣、11月に藺浦外務大臣政務官が相次いでウズベキスタンを訪問し、7月にはキルギスで岸田外相大臣が外相会談を行い、政務におけるそれぞれの立場でウズベキスタンとの関係強化について話し合いがなされました。また私自身も来月ウズベキスタンを訪問し、政府協議を行う予定であり、両国関係の関係強化のために尽力したいと考えております。これからの課題は、政府のみならず、ビジネス面での関係をいかに拡大させていくか、という点でございます。天然資源に恵まれ、豊富な人材を有するウズベキスタンの潜在性について繰り返す必要はございません。外務省といたしましても、引き続き日本企業のウズベキスタンでの活動を全面的に支援してまいりますし、投資環境改善に向けた語りかけも粘り強く行っていく考えです。

最後になりましたが、本日の会議が、両国経済関係の一層の発展につながることを祈念し、挨拶とさせていただきます。

＜プレゼンテーション＞

クドラトフ・ウズインフォインベスト総裁 報告「ウズベキスタン共和国の経済・投資ポテンシャル」

尊敬するご出席の皆様にご心よりご挨拶申し上げます。投資環境と投資協力の有望分野について皆様にご紹介させていただきます。

ウズベキスタン政府は、独立直後より最先端技術の導入と海外投資誘致の方針をとってまいりました。独立以降、良好なビジネス環境が作られ、海外投資家のための特権や、外資による企業活動の促進等を目的とした法律や法令が採択されてきました。

政府の総合的な対策により、ウズベキスタンではマクロ経済が安定した成長を見せており、各分野において大きな発展が見られます。GDP に占める工業の割合ですが、2000 年の 14.2% に比べ、現在は約 30% となっております。農業は変わらず高い成長率を保っていますが、GDP に占める割合は減少傾向にあり、2000 年の 30% から、2014 年は 17% となっています。これは、農業国から近代的な産業国家へと進歩的な改革がなされ、大きな構造改革が行われていることを示しています。サービス業は、ウズベキスタン経済の安定した発展において重要な役割を果たしています。サービス業の規模は昨年 15.7% 拡大し、GDP に占める割合は 2000 年の 37% から 54% まで増加しました。現在、サービス分野においてウズベキスタンは先進国の水準に近づきつつあると申し上げることが出来るだけの根拠が揃っております。

ウズベキスタン経済が安定している重要な要因の一つとなっているのは、対外負債の少なさです。2014 年のウズベキスタンにおける投資額は、140 億ドルでした。昨年の投資総額は 2013 年より 10.9% 増加しました。Co-Business や企業活動の大きな成長は、ウズベキスタン経済の進歩的な変化を明瞭に物語っています。GDP に占める中小ビジネスの割合は、2000 年が 31% だったのに対し、2014 年には 56% に達しました。現在、中小企業が生産する製品の規模全体に占める割合は 31% で、サービス業に占める割合はほぼ 100%、輸出に占める割合は 20%、雇用 に占める割合は 76.5% となっています。これは Co-Business がウズベキスタン経済の安定した発展や雇用の創出、国民の福祉保障の分野で大きな役割を果たしていることを示しています。近年、技術環境の向上を目的としてビジネスを行うための約 160 の許可手続きと 19 種の商業活動に関するライセンス取得のための申請が開始されました。また独立以降、税負担が 3 分の 1 以上軽減されました。実施されている対策と改革によるウズベキスタンはこの 2 年半で世界銀行が発表している「Doing Business」のランキングで 30 の項目で順位を上げることができました。その他の研究機関より、高い経済成長や銀行システムの安定性と信頼性、法秩序と安全に対して高い評価を得ています。

ウズベキスタンの最も優れた点は、他国へのエネルギー依存のない、世界でも数少ない国のひとつであることです。国内には多様な鉱物や天然資源が埋蔵されており、天然ガス、石油、石炭、ウランの埋蔵量では世界で 10 位以内に入っています。生産される電力の価格は、先進国において平均価格よりも 4 分の 1 安くなっています。

ウズベキスタン経済は、中央アジア経済の中でもより多角化された経済です。中央アジアで唯一最新の自動車やトラック、ミニトラクター、コンバインなど高品質の工業機械など幅広い品目を生産しております。また、化学製品や繊維製品、食品、建設資材、電化製品などの巨大生産国となっています。

その他の魅力としては、国際的な教育水準に適った人的・知的潜在力があるということです。ウズベキスタンにはイギリスのウエストミンスター大学やシンガポール経営開発大学、イタリアのトリノ工業大学などヨーロッパやアジアの有名大学の分校があります。

地理および巨大市場への近さは海外投資家にとって魅力的だと言えるでしょう。ウズベキスタンは 3,000 万人以上の中央アジア最大の消費市場であり、その人口は中央アジアの約半分にあたります。発達した交通インフラのおかげでウズベキスタンの企業は中央アジア、CIS 諸国、アジア、ヨーロッパといった巨大かつ発展している地域にアクセス可能です。現在、海外投資により設立された約 5,000 の企業が成功を収め、他の企業の模範となりウズベキスタンの国家的な魅力や良好な投資環境を評価しています。ウズベキスタンでは、日本の投資により設立された 12 の企業が事業展開しており、11 の日本企業の駐在事務所があります。

ここで皆様にナヴォイ市、アングレン市、ジザク市にある経済特区についてお話したいと思います。自由産業経済特区では、直接投資の額に応じて、税の納入義務や輸入する設備・材料の関税が免除されます。現在、自由産業経済特区ではデジタル機器やモデム、インターネット機器、携帯電話、省エネルギー系照明器具、自動車部品、ポリマー製品、化粧品などその他多くのハイテク製品を製造する企業が設立され成功を収めています。皆様には約 380 億ドルにものぼる約 870 のプロジェクトの発展のための国家プログラムにご注目いただきたいと思います。そのプログラムには食品、石油、ガス、石油化学工業、機械工業、電気工業、節約産業、繊維産業などのプロジェクトが含まれています。この機会をお借りして、これらのプロジェクトを共に実現するために日本企業の皆様にぜひ参加していただきたいと思います。と申し上げます。

尊敬する日本の皆様、ウズベキスタンは日本との相互互惠的なプロジェクトの実現のために日本の先進技術を誘致に関心がありますことを改めて申し上げたいと思います。お互いの努力により両国の経済パートナーシップが質的に新たな段階に発展することを確信しております。

ご静聴ありがとうございました。

ウズベキスタンにおける ビジネスの可能性

UZINFOINVEST エージェンシー

ウズベキスタン共和国対外経済関係投資貿易省

健全な法的基盤

- ▶ ウズベキスタンにおける投資活動に関する主な法律
 - ▶ 海外投資に関する法
 - ▶ 海外投資家の権利を守るための保証と対策に関する法
 - ▶ 投資活動に関する法
 - ▶ 自由経済特区に関する法

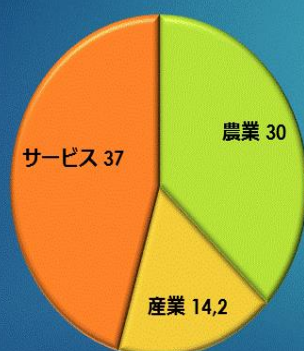
GDP の成長率

(前年に対する%)

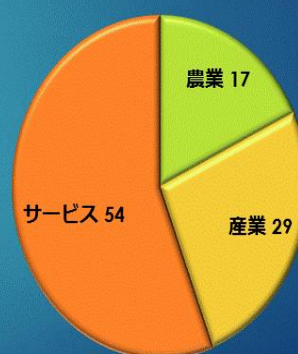


経済の多角化

2000 年の GDP の内訳 (%)



2014 年の GDP の内訳 (%)



対外負債

(GDPに対する%)

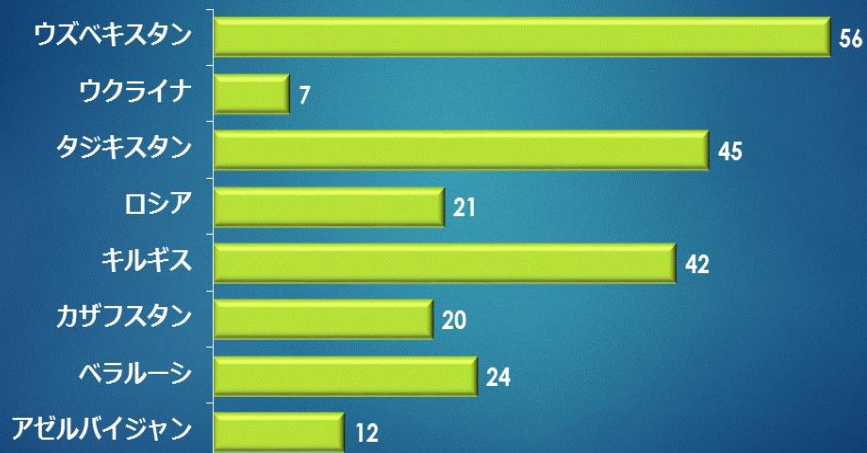


ウズベキスタンにおける海外投資の増加

100万ドル



経済に占める中小ビジネスの割合 (GDPに対する%)



ライセンスを受けた事業の統計、税、財務報告とライセンス手続きの簡素化

税負担の動向、GDPに対する%



- ▶ 独立以降、税負担が3分の1以上軽減
- ▶ 産業分野における中小企業の単一税の支払額は5%
- ▶ 近年、160の許可手続きと19種の商業活動に関するライセンス取得のための申請が廃止
- ▶ 過去数年にわたって、国の管轄機関への統計、税、財務報告の頻度が半分に軽減

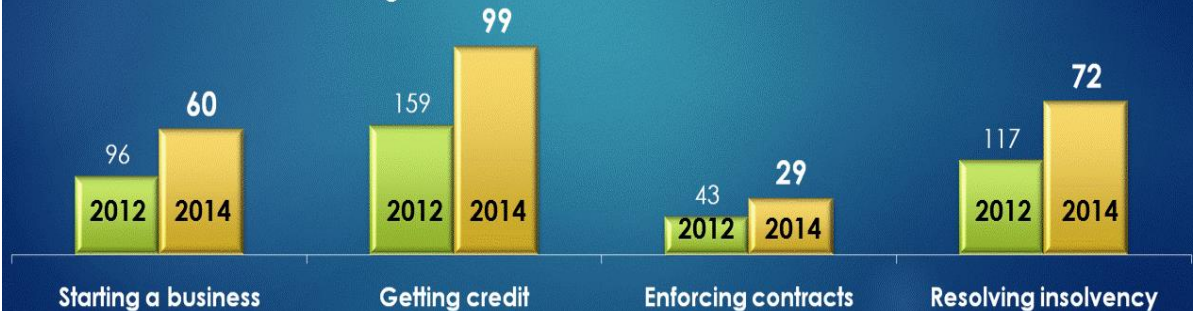
国際機関、金融機関による評価



▶ 「Doing Business」でウズベキスタンは過去2年間で30の項目で順位を上げる:

- ▶ 貿易のしやすさ－輸入と輸出のオペレーション
- ▶ 良好なビジネス環境
- ▶ 規制の複雑さの緩和
- ▶ 投資家の保護

「Doing Business」におけるウズベキスタンの順位



国際機関、金融機関による評価



ウズベキスタンの銀行システムの展望は**安定**

法律の施行と安全性では世界**第5位** ◀



急速な経済発展－**20位**

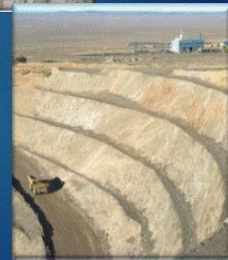
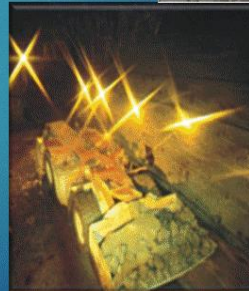
豊富な原料の基盤

▶ ウズベキスタンは特有の資源を有している:

- ▶ 原料 (鉄 & 非鉄)
- ▶ 1644以上の鉱床と100種類の天然資源

▶ 平均価格:

- ▶ 電力-0.05 USドル/kWh
- ▶ 石炭 - 47.0 USドル/MT
- ▶ ガス - 72.6 USドル/1000 m³



多角化された産業



自動車産業



石油ガス産業



化学産業



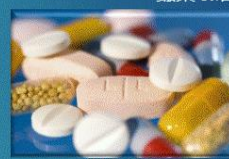
鉱業 & 冶金業



農業機械



電気技術



製薬産業



食品産業



繊維産業



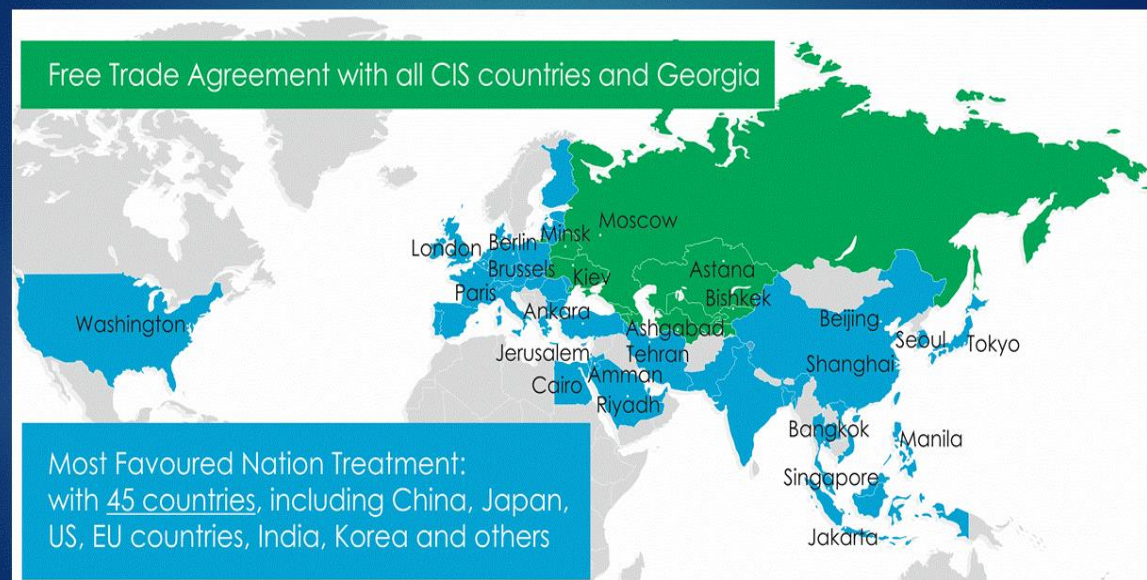
建設資材

教育

- ▶ 66の大学と科学機関
- ▶ 850の専門
- ▶ 30万人の学生
 - ▶ 海外の有名大学の分校:
 - ▶ ウェストミンスター大学
 - ▶ トウリン工業大学
 - ▶ シンガポール経営開発大学
 - ▶ モスクワ大学



市場へのアクセス



中央アジアとアフガニスタン : 9000万人

CIS : 3億人

ウズベキスタンにおける外国企業



二国間の投資協力

- ▶ 12の合併企業
- ▶ 11の日本企業駐在事務所

主な事業分野：貿易、輸送サービス、観光、ヘルスケア、機械、冶金、軽工業など



ウズベキスタンの経済特区



- ▶ ナヴォイ自由産業経済特区
- ▶ ジザク自由産業特区
- ▶ アングレン自由産業特区

自由産業経済特区：税の優遇

- ▶ 自由産業経済特区では、すべての税の納入義務が免除：
優遇期間：
海外直接投資の額が：
 - ▶ 300万ユーロから1000万ユーロまで-7年間；
 - ▶ 1000万ユーロから3000万ユーロまで-10年間。最後の5年間は、実際の税率の50%が適用；
 - ▶ 3000万ユーロ以上-15年間。最後の10年間は、実際の税率の50%が適用。



自由産業経済特区

▶ 生産されている製品:

- ▶ 自動車部品;
- ▶ 自動車用ケーブル;
- ▶ ガスシリンダー;
- ▶ LEDランプ;
- ▶ ハイボルテージケーブル;
- ▶ 暖房用ボイラー;
- ▶ 化粧品;
- ▶ ポリエチレンパイプ他.



工業発展のための国家プログラム

- ▶ このプロジェクトは、ほぼ380億ドルにのぼる約870のプロジェクトを含む



吉村宗一・日本貿易振興機構理事
報告「ウズベキスタンを中心とした中央アジアでのジェトロ事業と日本・ウズベキ
スタンの協力の可能性」

アジモフ第一副首相兼財務大臣閣下、関山・日本ウズベキスタン経済委員会会長ならびにご列席の皆様。

ただいまご紹介にあずかりました JETRO 理事の吉村です。私はジェトロで欧州および CIS 諸国を担当しておりますことから、ジェトロの概要とウズベキスタンでの活動につき報告申し上げます。

ジェトロは、世界 57 カ国に 75 の、また日本国内に 40 の事務所を置いています。これらのネットワークを活用し、さまざまな方法により海外市場の情報を提供することで、日本企業の海外展開をサポートしています。ウズベキスタンには 2000 年に、タシケントに事務所を開設いたしました。

地図を見ていただきましたら分かるとおり、タシケントは中央アジアで唯一の事務所です。ジェトロの主な活動の一つは、中小企業をはじめとした、海外市場展開を図る日本企業向けの支援です。具体的なビジネスマッチングのため、海外から消費財、機械、食品・農水産品のバイヤーを日本に招聘し、東京のほか日本各地で商談会を開催しています。市場視察や投資可能性を探るためのミッションを派遣しています。

また、日本企業に対する、世界各国の市場やビジネス環境の情報提供も行っています。日本国内で諸外国の経済状況やビジネス間環境に関するセミナーを開催するほか、ジェトロが持つウェブサイトなど各種媒体を通じて情報提供をしています。

ここでウズベキスタンの経済状況と日本企業の関心について、ジェトロの立場からお話させていただきます。先程アジモフ第一副首相のお話にもあった通り、1991 年の独立以降、ウズベキスタンが漸進的な改革を進め、着実に経済発展を遂げてきたのは、よく知られているところです。2014 年は、ロシアの経済成長鈍化の影響を受け経済成長見通しは下方修正されているようですが、それでも 8% 程度の成長見通しであり、引き続き堅実な成長を続けているとあってよいでしょう。去る昨年 12 月の議会選挙を経、来る 3 月には大統領選挙が実施されますが、引き続き安定した政権運営がなされますことを期待したいと思います。

ウズベキスタンは人口約 3,000 万人と、中央アジア随一の市場規模を有しています。市場規模の潜在性から、日本企業もウズベキスタンに関心を示しています。ジェトロに寄せられた貿易・投資相談件数は、CIS 諸国の中ではロシアが一番ですが、ウズベキスタンはそれに次ぐ第 2 位です。日本企業から寄せられた問い合わせには、一般的なビジネス環境、経済状況などのほか、日本酒や電気楽器の輸出、衣料品生産など具体的な案件の照会もありました。

このような日本企業の関心の高まりを背景に、ジェトロでは昨年 10 月、ウズベキスタンに、新興国として注目される中央アジア諸国の消費市場の実情を把握することを目的として、ボリュームゾーン・ビジネス・ミッションを派遣しました。日本企業 10 社が参加し、現地関係機関の協力も得て、地場系および外資との合弁メーカーへの訪問、市場やスーパーマーケットの視察のほか、一般家庭の訪問も行いました。参加企業からは、「外資企業がウズベキスタン市場に参入

する際の注意点、成功要因について具体的で現実的な話が聞けた」、「外資企業がウズベキスタン市場に参入する際の製造におけるメリット・デメリットについて理解ができた」などの声が寄せられました。情報不足から、ともするとウズベキスタンとのビジネスを敬遠してしまいがちな日本企業もあろうかと思いますが、これらのミッションを通してウズベキスタン市場の潜在性・可能性を知ることができたことで、将来の具体的なビジネスの種を蒔く好機となったと期待しています。

またジェトロは、ウズベキスタン製品の対日輸出の支援もしています。具体的には、日本で毎年3月に開催されるアジア最大の見本市「フーデックス」にジェトロのブースを設け、ウズベキスタンをはじめとする新興国企業の製品を日本のバイヤーに紹介しています。ウズベキスタンからはこれまで、蜂蜜やドライフルーツ、綿実油などが出展されました。これら出品物には日本企業からも関心が示されました。特に蜂蜜は、日本にはない独特の風味が高く評価されたこともあり、日本側の関心が高かったとのことでした。

その一方、現在までに具体的な商談に結びついた例は、残念ながら承知しておりません。この背景には、ウズベキスタン企業との英語でのやり取りがスムーズでないこと、ウズベキスタンから日本までの輸送を行うフォワーダーが見つけにくいことなど、様々な理由があると考えられます。これらのウズベキスタンから日本への輸出を阻害する要因の解決は今後の課題となりますが、ウズベキスタン企業が日本をはじめとした旧ソ連諸国以外との取引に慣れるとともに、日本企業側もウズベキスタンの実情を知ること、徐々によくなっていくと期待したいと考えております。

ジェトロは昨年、ウズベキスタンの情報支援・外国投資促進機関であるウズインフォインベストとの間で、包括的な協力に関する覚書に署名しました。覚書には、企業・産業に関する経済情報の交換を進めていくことを含め、ジェトロとウズインフォインベストの協力の方向性が示されています。

日本企業が海外での活動を検討する際にまず行うことは、各国の経済状況や市場としての可能性を判断するために必要な情報収集です。最初にも申し上げましたように、日本企業の海外進出のためジェトロはそのような情報を収集し、日本企業に提供しています。ウズベキスタンに対する日本企業の関心をより一層高めるためにも、日本企業がウズベキスタンで事業展開を検討するうえで必要な情報に、容易にアクセスできる環境整備をお願いしたいと思います。

日本企業が海外でのビジネスを行う上では、その国の市場規模、自社製品の需要、日本以外の外国企業がどのように活動しているかを知ることがきわめて重要です。特に、投資をして新たなビジネスの展開を考える場合には、これらの情報は不可欠なものです。

日本とウズベキスタンの経済面での交流の一層の進展のため、日本企業が必要とする情報の一層の公開をお願いしたいと存じます。幸いにも、ジェトロはタシケントに事務所を置いております。先に述べましたようなビジネス展開に不可欠な情報共有いただければ、日本企業の貴国への関心の一層の高まり、具体的なビジネスの進展につながりやすくなるのではないのでしょうか。ウズインフォインベストと結びました MOU を活用し、ジェトロとしてウズベキスタンのビジネス情報を日本企業に伝えていきたいと思いますので、ウズベキスタン側のご協力をよろしくお願い申し上げます。

私は1年前、プライベートでウズベキスタンに行き、タシケントだけでなくブハラやヒヴァも

訪れました。地方まで道路等のインフラが整備されていること、暖かくフレンドリーな人々と出会えたこと等、良い思い出ばかりです。この私が大好きなウズベキスタンと日本との関係がより強化されるよう、ジェトロとして尽力してまいります。

ご清聴ありがとうございました。

グリャモフ・ウズベキスタン復興開発基金総裁 報告「ファイナンス協力拡大の展望」

私の方からは、簡単に私どもの主な活動内容を、投資プロジェクトの分野でお話させていただきたいと思います。

まず申し上げたいのが JICA との関係です。ポートフォリオは 24 億ドルを超えており、輸送や教育等様々な分野におけるプロジェクトに投資していただいております。サマルカンド、ブハラ、またウルゲンチ空港の近代化や、学校の近代化等の事業もございました。先程もお話がありましたように、ジュピターイニシアチブという発電所に関する新しいプロジェクトがございますが、様々な投資がなされております。アムブハラ灌漑システム事業や鉄道電化事業等など非常に重要なプロジェクトとなっており、今後の国づくりにおいて大きな意味を持っております。

JBIC との協力ですが、プロジェクト総額は 15 億ドルで、うち JBIC の融資のシェアとしては 7 億 5,000 万ドル以上となっております。具体的なプロジェクトとしては、ブハラ石油精製プラントやシュルタン・ガス化学コンプレックス等の建設がありました。そして、総額 38 億ドルを超える新規投資プロジェクトとして、JBIC より 14 億ドルを超える支援に関する覚書が調印されました。

また、2006 年大統領によって設立された復興開発基金の課題ですが、持続可能な成長への貢献、産業開発、エネルギー効率の高い先進的な技術の導入が挙げられます。具体的には、石油ガス、化学・石油化学、エネルギー・電力、金属・鉱業、運輸・通信、インフラなどの分野がございます。

私どものポートフォリオですが、91 以上のプロジェクトに融資がなされており、現在 56 のプロジェクトが実施中もしくは実施済みとなっており、準備されているプロジェクトが 35 件で、日本企業の方々にもご参加いただいております。

プロジェクト事例として、スルギル鉱床におけるウスチュルト・ガス石油化学コンプレックス建設がございます。これは石油化学分野における最良のプロジェクトであると評価を頂いておりますフィナンシャルパートナーとして、世界の大きな金融機関にご協力いただいていることを大変嬉しく思います。

また、タリマルジャン火力発電所のコンバインド・サイクル発電プラントの導入プロジェクトがございます。発電所に関しては、日本の設備が導入されることになっており、JICA にもご協力をいただいております。

次に、アングレンーパプ鉄道建設プロジェクトについて申し上げますと、同鉄道は 120km に及び、その途中フェルガナ溪谷、またウズベキスタンの中央部を結ぶカムチック峠を通過する非常にユニークなトンネルもございます。同プロジェクトのフィナンシャルパートナーとして、JBIC などがございますが、さらに協力をお願いしたいと思っております。

基金の主要パートナーですが、JICA、JBIC、世界銀行、アジア開発銀行等がございます。韓国、アメリカ、中国、スイス、ドイツ、スペイン、日本で言えばいすゞといった企業からの協力が得られております。近年、世界で金融危機が起りましたが、ウズベキスタンにおいてはどの銀行も決して評価を下げることなく、非常に安定した経営状態でありました。私どもの銀行は

様々な投資プロジェクトに非常に積極的に参加しております。

最後になりますが、私達の特に投資をめぐる協力関係には安定した融資が求められます。またビジネスにおいても、良いオファーがあればきちんとした援助をしていきたいと思っております。ご静聴ありがとうございました。



投資プロジェクト・ファイナンス



投資プロジェクトの融資元

1. 国際協力機構(JICA)
2. 国際協力銀行(JBIC)及び日本の商業銀行
3. ウズベキスタン復興開発基金(UFRD)
4. 国際金融機関(世界銀行、アジア開発銀行、イスラム開発銀行等)
5. 海外直接投資
6. ウズベキスタンの商業銀行

JICAのウズベキスタンにおける全ポートフォリオは24億米ドル

内訳:

- ▶ 実施済みプロジェクト7件 総額12億米ドル
(JICAのシェア-7億米ドル)
- ▶ 実施中プロジェクト5件 総額40億米ドル
(JICAのシェア-15億米ドル)
- ▶ 実施予定のプロジェクト3件 総額3.5億米ドル
(JICAのシェア-2.35億米ドル)



▶ 3

JICAの支援によるプロジェクト

JICAはウズベキスタンのインフラ、通信、教育セクターにおけるプロジェクトを支援してきた。

例:

- サマルカンド、ブハラ、ウルゲンチ空港近代化事業
(プロジェクト総額1.7億米ドル)
- «グザール-バイスン-クムクルガン» 鉄道新線建設事業
(プロジェクト総額4.47億米ドル)
- 職業高等学校設備近代化事業
(プロジェクト総額2.3億ドル)



▶ 4

JICA の実施予定及び実施中プロジェクト

- 電力セクターとそのインフラ近代化のための新プロジェクト «JUPITERイニシアチブ» 8.5億米ドル
 - トウラクルガン火力発電所(900メガワット)建設事業 (JICA: 6.24億米ドル)
 - ナボイ火力発電所2号機(450メガワット)建設事業 (JICA: 3.54億米ドル)
 - タリマルジャン火力発電所増設事業におけるコンバインド・サイクル発電ブロック2基(450メガワット)の導入 (JICA: 2.93億米ドル)
 - アムブハラ灌漑システム事業(JICA: 9900万米ドル)
 - カルシ-テルメズ鉄道電化事業 (JICA: 2.2億米ドル)



▶ 5

ウズベキスタンとJBICの協力



ウズベキスタンにおけるJBICのポートフォリオは実施済みプロジェクト7件総額15億米ドル、うちJBICの融資シェアは7.5億米ドル以上

代表的プロジェクト:

- ブハラ石油精製プラント建設 (JBIC貸付 5900万米ドル)
- シュルタン・ガス化学コンプレックス建設 (JBIC貸付 3.28億米ドル)



総額38億米ドルを超える6件の新規投資プロジェクトにおけるJBICの支援(14億米ドル)に関する了解覚書

▶ 6



ウズベキスタン復興開発基金(UFRD)

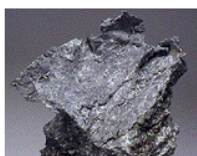
ウズベキスタン共和国大統領により2006年に設立、その主な設立目的は;

- 輸出収益の不胎化
- 戦略的産業投資プロジェクトの融資・共同融資

主要なゴール:

- 持続的成長への貢献
- 産業開発
- 先進的なエネルギー効率の高い技術の導入

資産額は2006年の10億米ドルから250億米ドルに増加



▶ 7

The Fund for
Reconstruction & Development
of the Republic of Uzbekistan

融資の分野

石油・ガス

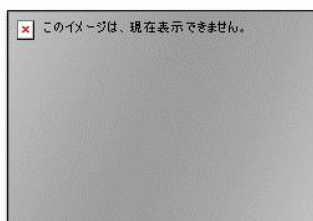
化学・石油化学

エネルギー・電力

金属・鉱業

運輸・通信

インフラストラクチャー



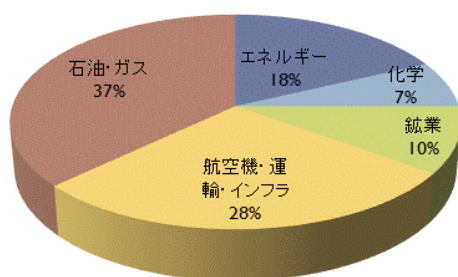
▶ 8

The Fund for
Reconstruction & Development
of the Republic of Uzbekistan

UFRD のポートフォリオ

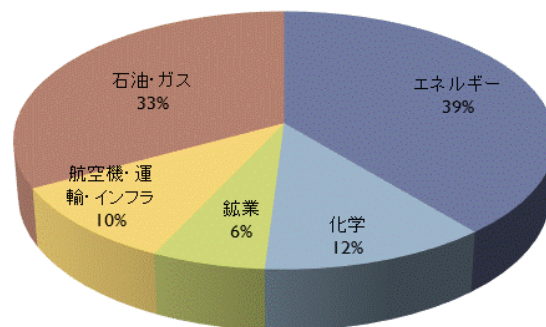
前述の分野における91プロジェクトの融資及び融資準備段階
総額317億米ドル

56 プロジェクト
実施済みまたは実施中



総額 - 190億米ドル
UFRD 融資 - 43億ドル

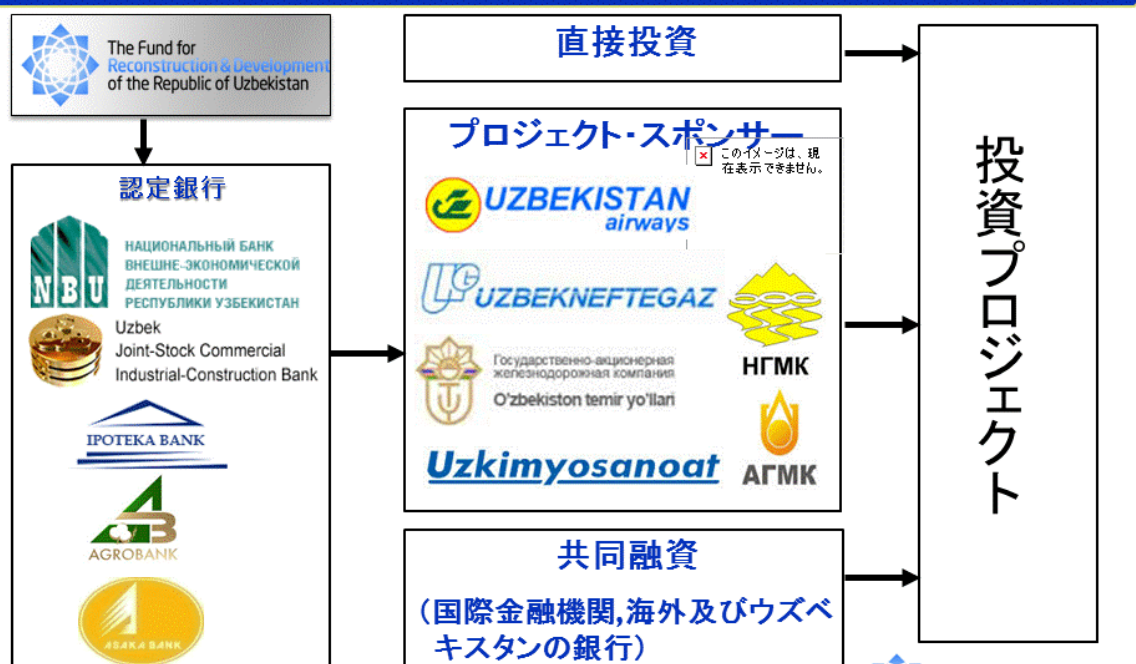
35 プロジェクト
具体的に準備中



総額 - 127億米ドル
UFRD 融資 - 36億米ドル

▶ 9

プロジェクト・ファイナンスのスキーム



▶ 10

プロジェクト事例: スルギル鉱床におけるウステュルト・ガス石油化学コンプレックス建設



プロジェクト情報

- プロジェクト総額: \$40億以上
- 完成時期: 2015年
- 株主: ウズベクネフチガス、韓国企業



▶ 11



INFRASTRUCTURE
JOURNAL AWARDS 2014
Recognising the achievements of 2013



2014 Infrastructure Journal **Global Deal of the Year**
2013 Euromoney **Best PNG Construction project**
2012 Project Finance Int. **Petrochemical Deal of the Year**

内容

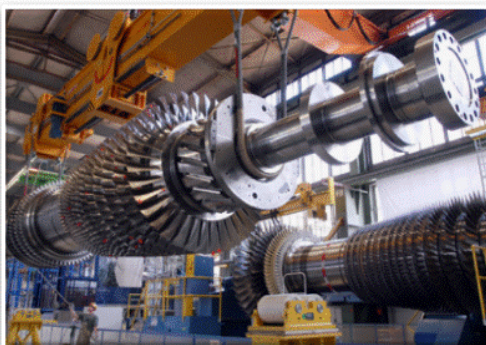
プロジェクト・キャパシティ: 天然ガス45億立米,
高密度ポリエチレン40万トン,パイロリシスガソリン
11万トン

19の国際銀行によるコンソーシアム: 中国・国家開
発銀行, 韓国輸出入銀行, 韓国貿易保険公社(K-
Sure), アジア開発銀行等が償還期間16年で25億
米ドルを融資

プロジェクト事例: タリマルジャン火力発電所

プロジェクト情報

- プロジェクト総額: \$10億以上
- 完成時期: 2016年
- 株主: ウズベクエネルギー
- 発電量: 900 メガワット
- 融資: UFRD, JICA, ADB



▶ 12

内容

このイメージは、現在表示できません。

- タリマルジャン火力発電所におけるコンバインド・サイクル発電プラント2基(各450 MW)の導入

- 予測出力: 年間 6,088 ギガワット

プロジェクト事例: アングレン-パプ鉄道建設



Davlat aksiyadorlik
temir yo'l kompaniyasi
O'zbekiston temir yo'llari

- プロジェクト総額: \$15億以上
- 完成時期: 2016年
- 株主: ウズベキスタン鉄道
- 融資: UFRD, 中国輸出入銀行, ウズベキスタン国営鉄道会社

- 120kmに及ぶ"アングレン-パプ"鉄道の建設: その中にはフェルガナ渓谷(アンディジャン、ナマンガン、フェルガナ地方)とウズベキスタン中央部を結ぶカムチック峠を通過するトンネル19kmが含まれる



UFRD のパートナー

- ・ 国際協力機構 (JICA)
- ・ 国際協力銀行 (JBIC)
- ・ 世界銀行
- ・ 国際金融公社 (IFC)
- ・ アジア開発銀行 (ADB)
- ・ 中国・国家開発銀行
- ・ 中国輸出入銀行
- ・ 国際石油投資会社 (IPIC)
- ・ イスラム開発銀行 (IDB)
- ・ アラブ経済開発クウェート基金
- ・ マレーシア輸出入銀行
- ・ カタール投資局 (QIA)
- ・ オマーン国家準備基金
- ・ 韓国開発銀行
- ・ 韓国輸出入銀行
- ・ 韓国貿易保険公社 (KSURE)



The Fund for
Reconstruction & Development
of the Republic of Uzbekistan

ウズベキスタンにおける国際金融機関の活動



アジア開発銀行(ADB):
43 プロジェクト 総額156億米ドル
うち、ADB貸付57件 合計80億米ドル



世界銀行グループ:
26 プロジェクト 総額29億米ドル
うち、世銀貸付32件 合計30億米ドル



イスラム開発銀行(IDB):
26 プロジェクト 総額20億米ドル
うち、IDB融資 合計14億米ドル

▶ 15

海外直接投資

- Kogas, Honam (韓国) - ポリエチレン(PE)及びポリプロピレン(PP) 生産
- «GM» (米国) - 自動車製造
- «CNPC» (中国) - 石油・ガス採掘
- “MAN” (ドイツ) - 大型トラック製造
- Nestle - 乳製品・飲料水等の生産
- Maxam - 肥料生産

ほか



▶ 16

ウズベキスタンの銀行システム

I. ウズベキスタン中央銀行

II. 27の商業銀行:

- 2 国有銀行
- 14 共同出資銀行
- 4 外資系銀行
- 7 民間銀行



▶ 17

主要な財務指標

1. 平均自己資本比率 23.8% (バーゼル合意基準 8%)
2. 流動性比率 65%以上 (ウズベキスタン中央銀行の最低要求値は30%)
3. 不良債権 1%以下
4. すべての商業銀行は:
 - 主要な国際格付け機関によって格付けされている
 - 国際財務報告基準 (IFRS) の独立監査を受けている
4. 過去3年間の成長率:
 - 総資本額 1.9 倍 (年間 30% 増)
 - 総資産 2.1 倍 (年間 36% 増)
 - 貸付ポートフォリオ 2.3 倍 (年間 37% 増)
6. 預金全額保護
7. 人口 10 万人あたりの金融機関数 53 (世界平均 30)



▶ 18

バシドフ・国営株式会社ウズベクエネルゴ総裁
『「ジュピター」プログラムの枠内でのエネルギー分野における協力の展望
について」

ご列席の皆様にご挨拶申し上げたいと思います。

ウズベキスタンの電力分野での近代化を目指すプログラム「ジュピター」についてご報告させていただきます。省エネにも非常に重点を置いたプロジェクトでございます。

ウズベクエネルゴは、54 の企業、機関を傘下に収めております。火力発電所 10 ヲ所、水力発電所 28 ヲ所、設計事務所 4 ヲ所、そして建設・修繕・修復にあたる 13 の企業となります。2014 年の生産電力は 5,430 万 MWh でした。パワーグリッドの総延長は 23 万 8,000km、従業員数は 5 万 5,000 人です。

ウズベキスタンの電力ですが、毎年需要が約 8 %伸びております。2030 年までの計画では、電力を現状の 5,430 万 MWh から 1 億 500 万 MWh まで拡大させることになっております。2030 年までの電力セクター発展予測についてはグラフをご覧ください。

今後、CCGT ユニット 14 基、ガスタービンユニット 4 基を設置する計画です。また、環境に優しい石炭を使ったクリーンな発電所を 3 ヲ所建設いたします。発水力発電所の近代化、太陽光発電所 6 ヲ所の建設を予定しております。

では、現在進行中の総額 82 億ドルの 40 件のプロジェクトについてお話ししたいと思います。原子力発電所プロジェクトは 7 件あり、総額 44 億 6,000 万ドルです。水力発電所プロジェクトに関しては、10 の件、総額 4 億 8,000 万ドルです。パワーグリッドプロジェクトは 14 件、総額 24 億 9,000 万ドル、再生可能エネルギープロジェクトは 9 件、総額 7 億 7,700 万ドルです。

ここで、日本との協力の成功例をご紹介します。まず、ナヴォイ火力発電所での CCGT の建設です。出力 478MW、年間発電量は、34 億 6,000kWh で三菱重工業との協力によるものです。

2 つ目は、タシケント熱電併給所内カスタービンコジェネレーションの建設です。出力 27MW で、年間発電量は 2 億 2,799kWh です。ファイナンスは、NEDO のグラント、日本のパートナーは日立製作所と東北電力でした。

3 つ目は、タリマルジャン火力発電所拡張に際する出力 450MW の CCGT ユニット 2 基の導入で、その年間発電量は、54 億 kWh です。ファイナンスは ADB、ウズベキスタン復興開発基金、JICA 日本のパートナーは、三菱重工、富士電機でした。

さて本年、日本の企業との協力関係は広範囲に及んでおります。ナヴォイ火力発電所近代化プロジェクトです。出力は 450MW 相当、ファイナンスは JICA の 3 億 5,000 万ドルとウズベキスタン復興開発基金の 1 億 5,000 万ドルです。本年第 2 四半期に契約を結ぶ予定になっております。

次は、トゥラクルガン火力発電所建設プロジェクトです。出力 450MW が 2 基で、ファイナンスは JICA が 7 億ドル、ウズベキスタン復興開発基金が 3 億ドルです。本年第 4 四半期において、EPC コントラクターを選出することになっております。

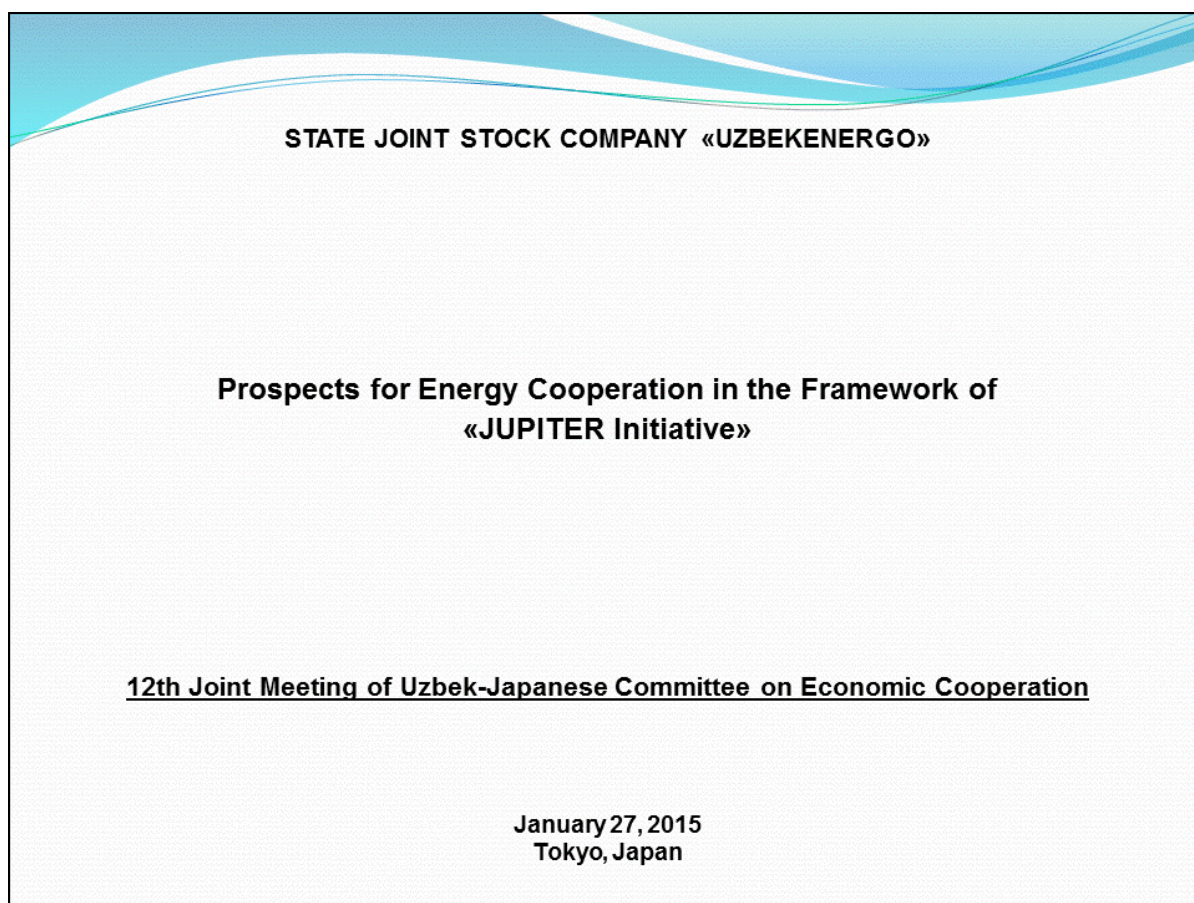
続いてタヒアタシ火力発電所における CCGT ユニット 2 基の建設プロジェクトです。出力 230 ~280MW×2 基でして、ファイナンスは ADB、ウズベキスタン復興開発基金です。今年の第一四半期に EPC のコントラクターを選定する予定です。

他にも、サマルカンド地域における太陽光発電施設の建設がございます。出力は 100MW 相当

で、ADB から 1 億ドル以上の融資を受け、ウズベキスタン復興開発基金のファイナンスは 1 億ドル以上です。

また、本年、10 の地域で AEC プロジェクトの導入が計画されております。電力消費メーターを、500 万ユニット以上設置するプロジェクトで、ファイナンスは、ADB、世界銀行、イスラム開発銀行となっております。

以上が電力分野における今後の計画です。ご清聴ありがとうございました。



STATE JOINT STOCK COMPANY «UZBEKENERGO»

SJSC «Uzbekenergo» consists of 54 enterprises and organizations:

- 10 Thermal Power Plants;
- 28 Hydropower Plants;
- 4 Design Institutes;
- 13 Construction and Repair Companies.

Installed Capacity of Power Plants:

12 500 MW

Production in 2014:

Electricity - 54,3 mln. MWh

Heat energy - 8,1 mln. Gcal

Length of Power Grid:

238 000 km

Number of employees:

55 000



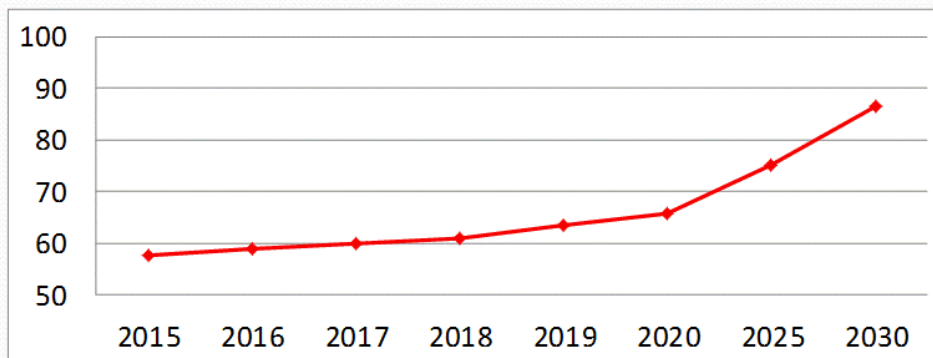
2

Priorities for Energy Sector Development

Annual GDP growth rate of at least 8% creates additional demand for increase capacity of power generation facilities and electricity production.

In order to meet the growing demand for electricity by 2030, it is planned to increase installed capacity of power plants to 20 000 MW and electricity production from 54.3 mln. MWh to 105 mln. MWh.

Electricity Consumption Outlook, 2015-2030. (bln. kWh)



3

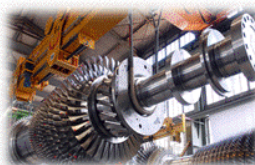
Priorities for Energy Sector Development

For the purpose of achievement specified parameters by 2030, in line with country's energy sector development concept, it is aimed to:

- construct 14 combined cycle gas turbine (CCGT) units and 4 gas turbine (GT) units with total capacity more than 6 000 MW;



- construct 3 environmentally friendly coal based power plants with total capacity 600 MW;



- modernize hydropower plants by enhancement installed capacity to 1 000 MW;



- construct 6 solar power plants with total capacity 1000 MW.

4

Ongoing investment projects

Nowadays implementation of 40 projects with total cost **8,2 bln. USD** have been started.

- **Thermal power plants (7 projects)**

Total cost: 4,46 bln. USD



- **Hydropower plants (10 projects)**

Total cost: 480 mln. USD

- **Power grid (14 projects)**

Total cost: 2,49 bln. USD



- **Renewable energy (9 projects)**

Total cost: 770 mln. USD

5

Examples of a successful collaboration with Japanese partners



Construction of CCGT unit at Navoi TPP

Installed capacity: 478 MW
Power generation: 3,46 bln. kW·h/year
Japanese partner: Mitsubishi Heavy Industries



Introduction of co-generation gas turbine technology at Tashkent CHP

Installed capacity: 27 MW
Power generation: 227,99 mln. kW·h/year
Structure of finance: NEDO grant
Japanese partner: Hitachi
Tohoku Electric Power Co



Talimarjan thermal power plant expansion with construction of two CCGT units

Installed capacity: 2x450 MW
Power generation: 5,4 bln. kW·h/year
Structure of finance: ADB
UFRD
JICA
Japanese partner: Mitsubishi Heavy Industries
Fuji Electric Systems

Long-range projects for cooperation with Japanese manufactures in 2015

Navoi Thermal Power Plant Modernization Project

Installed capacity: 450 MW
Structure of finance: JICA - 351,4 mln. USD;
UFRD - 150,0 mln. USD.

Project status: Contract signing with EPC contractor is scheduled to the 2nd quarter of current year.

Turakurgan Thermal Power Plant Construction Project

Installed capacity: 2 X 450 MW
Structure of finance: JICA - 704,0 mln. USD;
UFRD - 300,0 mln. USD.

Project status: A tender for selection of EPC contractor is scheduled to the 4th quarter of current year.

Project on construction of two CCGT units at Takhiatash TPP

Installed capacity: 2 X 230 – 280 MW
Structure of finance: ADB - 300,0 mln. USD;
UFRD - 260,0 mln. USD.

Project status: A tender for selection of EPC contractor is scheduled to the 2nd quarter of current year.

Long-range projects for cooperation with Japanese manufactures in 2015

Project on construction of solar photoelectric power station In Samarkand region

Installed capacity: 100 MW

Structure of finance: ADB - 110 mln. USD;
UFRD - 110 mln. USD.



Project status: Contract signing with EPC contractor is scheduled to the 1st quarter of current year.

Currently, for the purpose of realization next projects, solar radiation in five regions of the country is under investigation.

Advanced Electricity Metering (AEM) Projects

Implementation of AEM projects in 10 regions of the country with the installation of more than 5 mln. units of advanced electronic electricity meters is scheduled for 2015.

Funding: Projects with total cost more than 500 mln. USD will be co-financed by Asian Development Bank, World Bank and Islamic Development Bank.

Introduction of AEM will allow move to the Smart Grid later on.

8

THANK YOU
FOR YOUR
ATTENTION

WWW.UZBEKENERGO.UZ

e-mail: sjsc@uznet.net

9

ファイズラエフ・国営ホールディング会社ウズベクネフチェガス総裁 「石油ガス分野における投資プロジェクトの展望」

ご列席の皆様、議長の皆様、このような場でご挨拶させていただけることを大変嬉しく思います。私の方からは、石油ガス分野に関するご報告をさせていただきたいと思います。

ウズベキスタンの石油ガス部門は125年以上の歴史を持っており、ウズベキスタンは燃料エネルギー資源および石油化学製品の輸出大国のひとつです。国土の60%以上が炭化水素資源の有望国土となっております。現在は、247の炭鉱や油井、ガス田があり、確認埋蔵量（石油換算）としては25億tです。確認されている鉱区の60%は、独立後に発見されたものです。同分野がいかに急速に発展しているかお分かり頂けると幸いです。

2015年～2019年石油ガス分野開発プログラムが策定されており、総額158億ドルの52の優先プロジェクトが網羅されております。プロジェクトの実施として、炭化水素生産額を25%増、ガス化学製品および石油製品の生産額を2倍、機械製品の生産額を60%以上増という目標が掲げられています。

トランジット石油ガス輸送能力は1,200億m³、輸送先は中央アジア、ロシア、ヨーロッパ、中国となっております。現在計画中の、トルクメニスタン経由欧州向けガスパイプラインに連携できると考えています。ロシア大手企業であるガスプロムやルクオイル、中国のCNPC、ベトナム企業、その他韓国やイギリス企業など様々な大手企業とのプロジェクトが進められています。モーターオイルやエンジニアリングセンター、ボイラー生産のプロジェクトが考えられております。

ガス化学プロジェクトとしては、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレン、ポリエステル、スパンデックス、ABS樹脂、コンパウンドの生産が挙げられます。そして合成液体燃料生産としてはジェット燃料、ディーゼル燃料、ナフサです。石油加工分野では、ジェット燃料、ディーゼル燃料、モーターオイル、産業オイル、潤滑油などが挙げられます。重要分野としては、ガス輸送システムの近代化、ガス加工脱硫設備の改修、随伴ガスの利用、ガスパイプラインの排出削減プロジェクトが挙げられます。

個別事例を挙げると、まずブハラ製油所の建設ですが、年間生産能力は250万tで、日揮や丸紅参画の下、ファイナンスはJBICが行っております。次に、フェルガナ製油所改修プロジェクトですが、三井物産、東洋エンジニアリングが参加しております。また、シュルタン・ガス化学工場建設プロジェクトですが、三井物産、双日ヨーロッパ、東洋エンジニアリング、神戸製鋼、三菱東京UFJ銀行などが協力企業として挙げられます。

中央アジアで最大規模のプロジェクトと呼ばれているウスチュルトガスケミカルプラント建設は、スルギルガス田を基盤としたものになりますが、年間40万tのポリエチレン、10万tのポリプロピレンが生産されます。

今回皆様にご提案したいプロジェクトが複数ございまして、1点目は、ウスチュルトガスケミカルプラントで生産されるピロリシス留分を加工する工場の建設プロジェクトです。

また2点目は、天然ガスからのオルフィレン・ポリマーを生産するプロジェクトです。製品としてはポリエチレン、ポリプロピレン、合成ゴム、スパンデックスなどで、年間生産量は25万

tでプロジェクト費用はコスト 29 億ドルです。中央アジアではこのプロジェクトは類を見ない大規模なものとなっております。潜在市場はウズベキスタン、CIS 諸国、ヨーロッパ諸国が挙げられます。

3 点目ですが、ムバレク・ガス化学工場建設がございます。このプロジェクトで年間 40 万 t のポリエチレンを生産することになっており、プロジェクト費用は 25 億ドルです。

その他、機械製造、石油ガス設備分野が挙げられます。ガスコンプレッサーの生産やサービスセンターの建設では、ガスコンプレッサーの稼働寿命、修理期間を考慮した年間 25 台の潜在需要がございます。また、トルクメニスタンやカザフスタンも同様のガスコンプレッサーを使用しておりますので同プロジェクトでの製品を輸出できます。

また、CNG 圧縮天然ガスや燃料ステーションの設備製造が挙げられます。2015 年から 2019 年にかけて、ウズベクネフチェガスは 650 の CNG 充填ステーションを建設する予定です。

その他、自動メーターや計装設備の生産も考えられます。ウズベキスタン市場のみならず隣国にも輸出可能であると思っています。

いずれにしろ、私どもは提案を受けましたら喜んで検討させていただきたいと思っており、お互いが受け入れ可能な状態で実施していきたいと考えております。



ウズベキスタンOil & Gasセクター における投資展望

2015年1月27日
日本, 東京



www.ung.uz

ウズベキスタン共和国

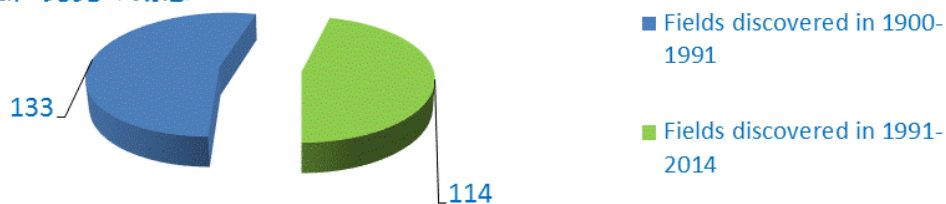


国土の60%の領域がハイドロカーボン(炭化水素)資源の探査上有望、現在247の Oil, Gas 鉱区があり、従来型燃料として25億Tonの確認埋蔵量を誇る。

www.ung.uz

埋蔵量と生産量

鉱区発見の動態



No	生産状況	単位	2014年	2020年 (予測)
1	年間ハイドロカーボン生産	million tons of oil equivalent	54,5	65,3
2	ダウンストリーム生産物	million tons	4,7	9,2
3	年間設備生産量	millions of USD	65,1	104,4

www.ung.uz

ガス輸送システム

North Line パイプライン:

1, 2, 3, 4, 5 Lines

年間輸送量
: 70 bcm

中央アジア-中国パイプライン:

1, 2, 3 Lines

年間輸送量: 50 bcm



www.ung.uz

外国パートナー

上流分野



下流分野



その他領域



www.ung.uz

今後の発展戦略 ハイドロカーボン加工の深化と更なる下流展開

ガスケミカル

ポリマー加工、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレン、ポリエステル、
スパンデックス、ABS樹脂、その他のコンパウンド
合成液体 燃料—ジェット燃料、ディーゼル、ナフサ、その他。

石油精製

ジェット燃料、ガソリン、ディーゼル燃料、自動車オイル、産業オイル、
潤滑油、ワックスその他

近代化

ガス輸送システム、ガスプロセスユニットや脱硫ユニットの再構築

効率利用

随伴ガス利用、エミッションを抑え、排出油・排出物をリサイクルする
プロジェクト導入



www.ung.uz

個別事例(プロジェクト)

ブハラ製油所

250万T/Y Capacityで JBICファイナンスを活用し、JGC、丸紅の参画の下、建設

フェルガナ製油所

東洋エンジニアリング、三井物産の参画の下、再建設

シュルタンガスケミカル

12.5万T/Y ポリエチレン生産コンプレックスで日本輸出入銀行、三井物産、日商岩井ヨーロッパ、東洋エンジニアリング、神戸製鋼、三菱東京UFJ銀行、エハラなど日本企業参画の下、建設。



www.ung.uz

個別事例(プロジェクト)

ウシュルトガスケミカル、
40万T/Y ポリエチレン、10万T/Y ポリプロピレン生産コンプレックス
45億bcm 天然ガスfeed



JWS GROUP



2012年石油化学プロジェクトファイナンス分野ベストプロジェクト



www.ung.uz

日本企業及び金融機関との 潜在協業分野

1. ウシュルトガスケミカル コンプレックスで生産されるポリシス留分を加工するプラントの建設

年間5万T/Y規模のポリスチレン、ポリエステル、ポリウレタンフォームなどを生産するプロジェクト
プロジェクトコスト 3億US\$

2. 天然ガスからのオレフィン・ポリマー生産

年間25万T/Y規模でのポリエチレン、ポリプロピレン、合成ゴム、スパンデックス、その他の生産
プロジェクトコスト:2900Mil US\$

これらのプロジェクトは、中央アジアにおいて類似のプロジェクトがない。

潜在市場:ウズベキスタン、CIS諸国、ヨーロッパ



www.ung.uz

日本企業及び金融機関との 潜在協業分野

3. Mubarek ガスケミカル コンプレックス

ムバレクガスプロセスプラントよりの原料
利用による40万T/Yポリマープラント
建設

プロジェクトコスト 2.5Bil US\$



www.ung.uz

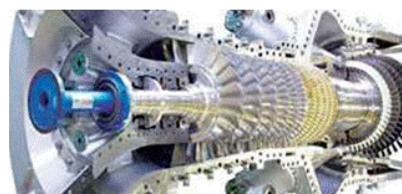
日本企業及び金融機関との 潜在協業分野

4. 機械エンジニアリング及びOil & Gas設備:

A) ガスコンプレッサーの生産及びサービスセンター創設
ガスコンプレッサーの稼働寿命、修理期間などに基づき
年間25台の潜在需要

B) CNG充填装置及び燃料ステーション生産
2015年から19年にかけてウズベキスタンでは650ヶ所の
CNG充填ステーション建設を計画

C) 自動メーターシステム、デバイス、計装設備の生産



www.ung.uz

トゥルムラトフ・国家地質・鉱物資源委員会議長代行 「鉱物資源分野における投資プロジェクトの展望」

私ども国家地質・鉱物資源委員会でございますが、鉱物資源の地質探査およびその活用における国の政策を実行する国家委員会です。

ウズベキスタンには、1,700 種類以上の鉱物資源があり、その約半分は独立後発見されたものです。8 兆ドル相当のポテンシャルがあると見込まれており、埋蔵量はいくつもの鉱物資源において世界有数の地位を誇っています。例えば金は世界 4 位、ウランは 12 位、銅は 8 位、カリウムは 4 位となっています。現在生産されているものについては、金は生産量が世界で 10 位、ウランは 7 位となっております。これまで探査されたのはまだ 20%のみであり、非常に大きいポテンシャルがございます。

日本との協力実例ですが、まず JOGMEC との協力についてお話しします。2013 年より、ナヴォイ州の砂岩型ウラン鉱区において、探査が行われております。2013 年から 2015 年にかけて、既に全長 3,800m の掘削が行われました。今後はプロジェクトシェアリング契約(PSA)に移行する予定です。ウズベキスタンはこれまで PSA の経験がありませんでしたので新しい投資プロジェクトのアプローチであるといえます。

レアメタルに関してもチャッカロクラミンレアメタルゾーンにおいて地質探査が行われています。2013 年に開始し、宇宙からの撮影資料等に基づいて行われており、既にサンプルも採取されています。

現在、総額 2 億ドル規模のプロジェクト 12 件が進行中です。主なパートナーは、JOGMEC、Rio Tinto、CGNPC、KORES などです。プライオリティの高い分野ですと、テビンブラクにおけるチタン・マグネタイト鉱床開発があります。金額にして 6 億ドル相当ですが、今後段階的に発展可能です。また、油頁岩鉱床の開発として金額 8 億ドルのものがございます。黒色頁岩型ウラン鉱床の地質調査・開発もあり、ウランとバナジウムを別々に生産することができます。1 億 2,000 万ドル規模のものです。中規模なものとタングステン、マンガン、タルク、玄武岩、グラファイト、ミョウバン、ベントナイト等の製造も可能です。

ウズベキスタンは外国投資家にとって投資環境、法律が整っております。国のサポート、特典、高水準の労働力かつ安い賃金、インフラ整備、安い電力といったメリットがあります。

ぜひとも我が国の国家地質資源委員会にご紹介ください。

ミルザマフムドフ・ウズキミヨサノアト（化学産業公社）副総裁 「化学工業分野における投資プロジェクトの展望」

関山会長、ご参加者の皆様、私の方から、ウズキミヨサノアトがどの日本企業とどのような協力を進めているか、また日本企業に対してどのような期待をしているかご説明します。

ウズベキスタンは資源が豊富であり、ウズキミヨサノアトではポリマー等の化学繊維の製造を推進しています。傘下には、無機肥料や合成繊維の製造、研究、デザイン等の組織もございます。

2006年に日本の企業としてはじめて三菱商事と協力関係を結びました。これは化学企業に設備を導入するというものでした。

現在準備中のプロジェクトは、ウズベキスタンにとって全く新しいものです。メタノールを加工しオレフィンを作るというものです。ぜひ日本企業に参加していただきたいと思っています。また他の中央アジアにないものとして自動車、電子機器の分野で重要な様々なポリマーの生産や合成洗剤、一般家庭用化学品の生産などが挙げられます。

日本企業に参加いただいているプロジェクトとしては自動車、農業用のタイヤの生産が挙げられます。この分野につきましては日本の企業の方々にぜひ技術コンサルタントとして参加していただきたいと思います。また、ナボイアゾトプラントでの硝酸プラント建設プロジェクトにおいても日本企業の参加を期待しております。その他、三菱重工、三菱商事とのプロジェクトでナボイアゾトプラントにおけるアンモニア・尿素製造設備の建設があります。日本の金融機関による融資を期待したいと思っています。また、ナボイアゾトプラントにおけるポリ塩化ビニル、苛性ソーダ、メタノール生産設備建設プロジェクトもございます。日本企業に対して技術的コンサルタントを期待しております。

またエネルギー効率の高い製造分野においても、日本企業の皆様に入札へのご参加をお願いしたいと思っています。高付加価値の製造分野の案件に関しても共同で進めていければと思います。日本の大手企業の方々とウズベキスタンから他の国々、東南アジア等への輸出を見込んだ生産を計画していきたいと思っています。国内の化学企業と日本企業との合弁等も見込んで進めていきたいと思っています。

イスマイロフ・ウズエルテフサノアト（電機産業協会）副総裁 「電機産業分野における投資プロジェクトの展望」

尊敬する関山会長、トリャガノフ次官、ご出席の皆様。

ウズベキスタン市場は、中央アジアのみならずアジア全体で見ても、規模の大きな市場であります。人口は現時点で 3,100 万人を超えており、家計所得が毎年 10%増加している点も重要なポイントです。ウズベキスタンは市場としても着実に成長していると言えます。こうしたこともあり、家電を含めた電気製品の需要が年々増えております。ご覧いただいている資料は、国内市場における製品の需要になります。携帯電話、エアコン、冷蔵庫、テレビなどは国内で生産しているものの全く需要に追いついておりません。

ウズベキスタンは家電製品を含めたこの需要対象の電化製品生産のための設備が整っております。所得税、資産税、関税、輸入税が免除されますし、ナヴォイ、アングレン、ジザクといった経済特区に入居すると 10 年間関税が完全に免除されます。ウズベキスタンでの製品製造は、輸出に大きな可能性を有しております。人口 6,000 万人の中央アジア、ロシアを含めた人口 3 億人の CIS とも協定を結んでいますので、ウズベキスタン製ということになりますとこの地域においては無関税で輸出可能になります。また、銅、ポリビニル、ポリプロピレン、ポリエチレン、ケーブル、ワイヤー、ガラスといった原料も国内で調達可能です。何よりも、高いスキルを持った労働力があります。

こうしたリソースを鑑み、プロジェクトを提案いたします。携帯電話およびタブレット端末のウズベキスタンでの製造です。国内市場では年間 300 万ユニットの需要がありますが、現在は 70 万ユニットしか製造できておりません。プロジェクトコストは 1,200 万ドルです。

また、コンプレッサーの製造も提案いたします。需要は年間 50 万台、現在は 20 万台の製造にすぎません。金額は 3,000 万ドル規模になるかと思います。

次は、エアコン製造です。年間需要は国内だけで 50 万台ですが、現状 20 万台の製造となっております。プロジェクト金額は 1,000 万ドルになります。

また、冷蔵庫に関してもウズベキスタン国内での生産を呼びかけたいと思います。年間需要は 70 万台ですが、現在は 20 万台の製造にすぎません。プロジェクト金額は 1,200 万ドルになります。将来はパソコン、小型モーター、ビデオサーベイランスシステム、スマートフォンデバイス等の製造も可能です。ご関心のある方は是非とも私達にコンタクトを取っていただきたいと思います。

ミルザヒドフ・国家通信・情報化・通信技術委員会議長 「通信分野における投資プロジェクトの展望」

尊敬する関山会長、トリャガノフ次官、ご列席の皆様。

本日発言の機会を頂けましたこと大変嬉しく思っております。私ども国家通信・情報化・通信技術委員会の役割は、情報・通信分野におけるライセンス発給を含む政府監督機関です。電子政府構築プロジェクトを推進し、ICT 分野の国家プログラムを実施しています。また、通信インフラおよびデータ通信ネットワーク拡充の推進として様々な分野での活動を行っております。

委員会は、IT 企業や情報開発センター、IT 関係の大学などで構成されており、IT 企業とは 1,000 社以上でうちソフト開発企業が 280 社入っております。

2013 年に国家開発戦略が採択され、国家情報通信システムの開発計画（2014～2020 年）が策定されました。開発計画に盛り込まれているプログラムは、通信インフラ開発プロジェクトが 17、電子政府開発プログラムが 22、経済関連分野の IT システムおよびアプリケーションのスケールアッププログラムが 86 ございます。

主要通信インフラ開発プロジェクトですが、光ブロードバンドアクセス通信ネットワークの拡大、光ファイバー通信網の敷設、ウズモバイルによる高速インターネット通信、3G、4GLTE ネットワークへの発展、次世代(NGN)技術ベースの交換器の拡大、交換センターの近代化などがございます。JBIC や JICA さんなど金融機関に積極的にご参加いただきたいと思います。また、技術分野でのパートナーとして、NEC、フジクラ、東芝などの様々な企業の方々と協力関係を進めております。既に完工済の日本企業との共同プロジェクトとしては、通信ネットワーク拡張、基幹通信ネットワークの増設、地上波デジタル TV 放送の開始とエリアの増設プロジェクトになります。

今後の通信分野におけるプロジェクトをご紹介します。基幹通信ネットワークと ICT インフラの増設プロジェクトで金額は 1 億 2,000 万ドルです。情報量の拡大を考えております。ファイナンスは JBIC の協力が予定されております。次に、光ブロードバンドアクセス FTTx 回線の増設プロジェクトで金額は 4,600 万ドルです。最後のプロジェクトは、データセンターの構築で金額は 3,000 万ドルです。日本企業の皆様にぜひ積極的にご検討いただきたいと思います。

尊敬する関山会長、ご列席の皆様、私どものプレゼンテーションによって、日本企業の皆様が今後の協力関係にご関心を持っていただけるよう願っています。

＜閉会挨拶＞

関山護・日本ウズベキスタン経済委員会会長／丸紅㈱副会長 閉会挨拶

本日は多数の皆様のご出席のもと、たいへん実り多い情報交換と積極的な討議が行われ充実した会議となりましたことを大変喜ばしく思います。

ウズベキスタン側の代表者より、電力、石油ガス、鉱物資源、化学、電機、情報通信などさまざまな産業分野における投資プロジェクトについてご提案をいただきました。残念ながら今回は時間の制約もあり、昨年8月の茂木前経産大臣ミッションの一環でタシケントに開催された日本ウズベキスタン・ビジネスフォーラム時のように日本側のプレゼンに多くの時間は割けませんでした。ご提案いただきましたプロジェクトにつきまして、実際のビジネスに結びつくよう積極的に努力していきたいと思っております。

日本との関係は、ODA をベースに進んでおりますが、やはり限界があり、協力の新しい段階では民間企業の投資なくして経済の発展はないだろうと思っております。それにはやはり投資環境の整備が重要です。この件に関しては民間企業とウズベキスタン政府にお願いしたいと思っております。

アジモフ第一副首相閣下、議長代行を務めていただいたトゥリャガノフ次官、ウズベキスタン代表団の皆様、日本ウズベキスタン経済委員会会員企業の皆様、そしてご参加企業の皆様のご協力に対し、心より感謝申し上げます。

次回、第13回合同会議は、ウズベキスタンで開催することになりますが、それまでに、双方でプロジェクトの実現に向けて真剣に取り組み、成功例を見出していきたいと思っております。

両国間の経済関係のさらなる発展を祈念し、第12回日本ウズベキスタン経済合同会議を閉会させていただきます。

＜文書調印＞

第 12 回日本ウズベキスタン経済合同会議において署名された文書一覧 (当日調印順)

1. 第 12 回日本ウズベキスタン経済合同会議議定書

締結者： 関山 護・日本ウズベキスタン経済委員会会長 丸紅株式会社副会長
アジモフ・ウズベキスタン日本経済委員会会長
ウズベキスタン共和国第一副首相兼財務大臣

2. ナヴォイ肥料プラントに関する合意書

締結者： 三菱重工業株式会社 エネルギー・環境ドメイン 営業総括部
プラント営業部長 鈴木 宏悦
三菱商事株式会社 プラントプロジェクト部長 鈴木 秀彦
ウズキミヨサノアト ミルザマフムドフ副総裁
JSC ナヴォイアゾット ジャマロフ会長

3. ウズベキスタンにおける既設発電プラントの運用・維持管理における協業に関する覚書

締結者： 三菱日立パワーシステムズ株式会社 サービス戦略本部
執行役員 サービス戦略本部長 河相 健
国営株式会社ウズベクエネルゴ バシドフ総裁

4. 通信情報技術国家委員会と日本電気株式会社との間の ICT 分野の情報共有に関する覚書

締結者： 日本電気株式会社 海外ビジネスユニット 理事 池野 昌宏
国家通信・情報化・通信技術委員会 ミルザヒドフ議長

5. ウズインフォインベストと株式会社東横インとの「ウズベキスタン国内におけるホテル建設の可能性基礎調査」に関する協力の覚書

締結者： 株式会社東横イン 執行役 鹿野 忠男
ウズインフォインベスト クドラトフ総裁

その他、1 件